

あれから(廃線)20年

三河線廃線区間

枝下編



目 次

枝下駅
LE-Car 最後の日----- 1
在りし日の LE-Car----- 3
枝下駅跡が変身----- 5
地域の憩いの広場「わくわく広場」完成----- 6
猿投グリーンロード・矢作川中洲の橋脚耐震補強工事----- 9
枝下町の史跡と旧飯田街道の案内板を掲出----- 10
枝垂れ桜----- 12
枝下町矢作川中洲(中島)が消える----- 15
しだれ産直ひろば----- 16
廃線後の春夏秋冬----- 18



枝下駅

枝下駅は昭和2年8月26日に開業。猿投以遠では、唯一、行き違い設備があった。

また、構内には引込線(三星粘土はく神谷傳兵衛・寺山八三郎・神谷太一の三人が作った会社→東芝炉材→東海セラミックス→現在はクアーズテック)があり、旅客より貨物営業主体の駅だった。

この地は木節粘土(耐火煉瓦・陶磁器・瓦の原料)の鉱脈があり昔から農家の副業として採掘していたが、三河鉄道の開業で益々盛んになった。枝下駅は、三星粘土が採掘した木節粘土を貨車に積み込み、刈谷で東洋耐火煉瓦会社が耐火煉瓦を造り、京浜・阪神・中京の工業地帯へ輸送した。木節粘土輸送のために作られた駅と言っても過言でない。

三河線で一番乗降客の少ない駅でもあった。また、“枝下用水の取水口跡(昭和4年に越戸ダムにに移設)”が矢作川右岸、猿投方300mのところにある。



LE-car 最後の日…平成16年3月31日





在りし日の
L E-carたち







枝下～大釜橋間





平成 18 年 7 月 4 日

枝下 駅跡 が 変身



平成 18 年 7 月 27 日



左・花壇 右・植栽ゾーン…平成 18 年 9 月 20 日



平成 18 年 11 月 28 日



平成 18 年 10 月 21 日

地域の憩いの広場「わくわく広場」完成

名鉄三河線の廃線跡地利用

旧枝下駅に憩いの広場

2006 年 (平成 18 年) 10 月 20 日 (金曜日)

矢作新報

矢作新報

愛知県豊田市井上町1-73
tel (0565) 45-2117 fax 43-2030
mail/kikaku-yahagi@asahi-
net.email.ne.jp

平成16年3月に廃線になった名鉄三河線の枝下(しだれ)駅跡地が、地元住民のボランティアによって地域の憩いの広場に生まれ変わり、お披露目の会が開かれた。「わくわく広場」と名付けられた公園は、敷地面積1643平方メートル。線路跡に沿って細長く広がっている。お披露目会には住民約140人と、御船、広瀬、石野の各自治区町や市関係者も出席。子供達がお囃子やヴァイオリンを披露し、つくたてのお餅やイカ焼き、ビールなども振る舞われた。





平成 19 年 4 月 27 日



平成 19 年 5 月 20 日

徐々に竹林を伐採しながら、線路に沿って枝垂れ桜や梅を植栽していった。また、竹林跡地にも枝垂れ桜を植栽。今では春になると辺り一面、梅花・桜花が次々と咲く。地元住民のボランティア活動によって、生まれた「わくわく広場」、訪れる度に模様替えしている枝下駅跡地に心がときめく…。



シュロの木を残し竹林を伐採…平成 19 年 6 月 11 日





枝下駅跡で「枝垂れ桜」をたくさん撮りましたが、気に入りの一枚です。P12と同じ構図に撮った。本人もびっくりです。よく見ると雲の位置が違う。この写真は平成26年4月3日に撮った写真です。



平成18年10月21日



猿投グリーンロードの耐震補強工事…平成 19 年 10 月から中州まで栈橋を作る。

猿投グリーンロード・矢作川中州の橋脚耐震補強工事



約 6 か月間、橋脚の耐震補強工事…平成 19 年 11 月 18 日



耐震補強工事も無事終了、午前 11 時ごろ、ささやかな「打ち上げの宴を」していた。平成 20 年 3 月 8 日



枝下町の史跡と旧飯田街道の案内板を掲出…平成 21 年 2 月 8 日
 (写真小・仮掲出→地図を手直し…平成 20 年 11 月 26 日)



線路内に細かい碎石を敷き散策道に(歩行し易いためと除草防止)…左・平成 23 年 6 月 26 日 左・7 月 11 日



枝下の方々が竹林内に通路を作りました、猿投方の竹林の中を通り抜けると手製の丸太橋をあります。
 渡るとそこには旧枝下用水路(石わく跡)に出る近道です。私はこの手作りの丸太橋が大好きです。

枝下界限の名所・ 旧跡案内板



平成 24 年 3 月 8 日～平成 25 年
3 月 7 日まで、逐次案内板が設置
されました。



左及び右の案内板は、薬王寺
入口に建てられた案内板。



上及び左の案内板は、
平成 27 年 4 月頃撤去
されている。

上及び右の案内板は、
枝下・渡船場跡に立
てられた案内板。





白梅…平成 24 年 3 月 20 日



枝垂れ桜…平成 26 年 4 月 3 日

枝垂れ桜

廃線後、線路に沿って枝垂れ桜や紅梅白梅が植栽され、地元住民のボランティア活動で花壇・植栽ゾーンも造成された。

「わくわく広場」と名付けられた枝下駅跡は、花と緑と矢作川の清流に囲まれた憩いのオアシス…。枝下構内線路跡は細かい碎石が敷かれ「枝下用水取入れ口」まで楽々と散策が出来る。



猿投グリーンロード上から平成 25 年 9 月 28 日

見事な枝垂れ桜に成長した…平成 28 年 4 月 3 日





令和3年3月3日



令和3年3月23日



中州(枝下駅跡前)の草木伐採工事…令和3年3月23日



平成29年4月13日



令和3年3月29日





枝下町の矢作川中州(中島)が消える？

2020年8月、愛知県が策定・公表した「一級河川矢作川上流圏域河川整備計画」によれば、10年に一度の洪水を安全に流下させるとともに、東海豪雨規模の洪水による宅地浸水の防止を図る目的で、枝下町の中島は掘削されることになった。

2021年7月9日“さようなら中島花火大会”が開催され、650発の打ち上げ花火が夜空を染めたという。この中島は天明年間の書物にでてくるという。天明とは1781～1789年を言い、天明2年に“天王星”がイギリスの天文学者ウィリアム・ハーシェルにより発見されたという。

※地元の方の話では、中洲は存続することになったとか…令和5年9月23日





毎月第2・第4土曜日に
しだれ産直広場が始まりました
(雨天は休業)



令和4年7月2日

10:00~12:00



2021年12月25日 スタート(写真は2022年7月2日)



縁あって、やっと「しだれの産直」の写真が撮れました…令和4年10月8日





二度目の訪問…令和5年9月23日(土)





春 冬 夏 秋 廃線後の



平成 27 年 4 月 5 日



平成 28 年 4 月 6 日



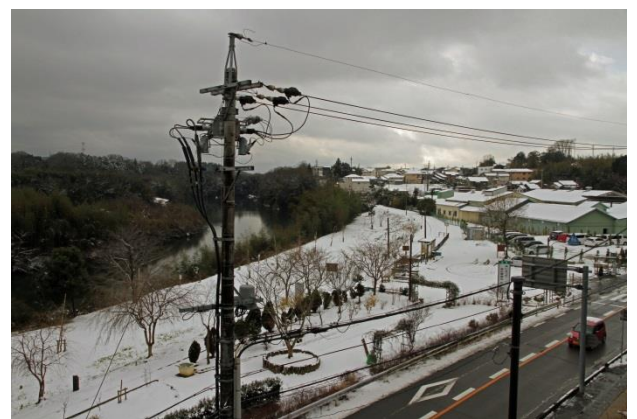
平成 27 年 8 月 5 日



平成 27 年 11 月 15 日



平成 24 年 2 月 2 日



平成 28 年 1 月 20 日



モッコウ薔薇…平成 28 年 4 月 30 日



平成 26 年 4 月 4 日



暑さも和らぎ、駆け足で秋がやってきました。アケビも「たわわに」実をつけて…平成 25 年 9 月 19 日



平成 17 年 12 月 19 日



平成 23 年 1 月 16 日

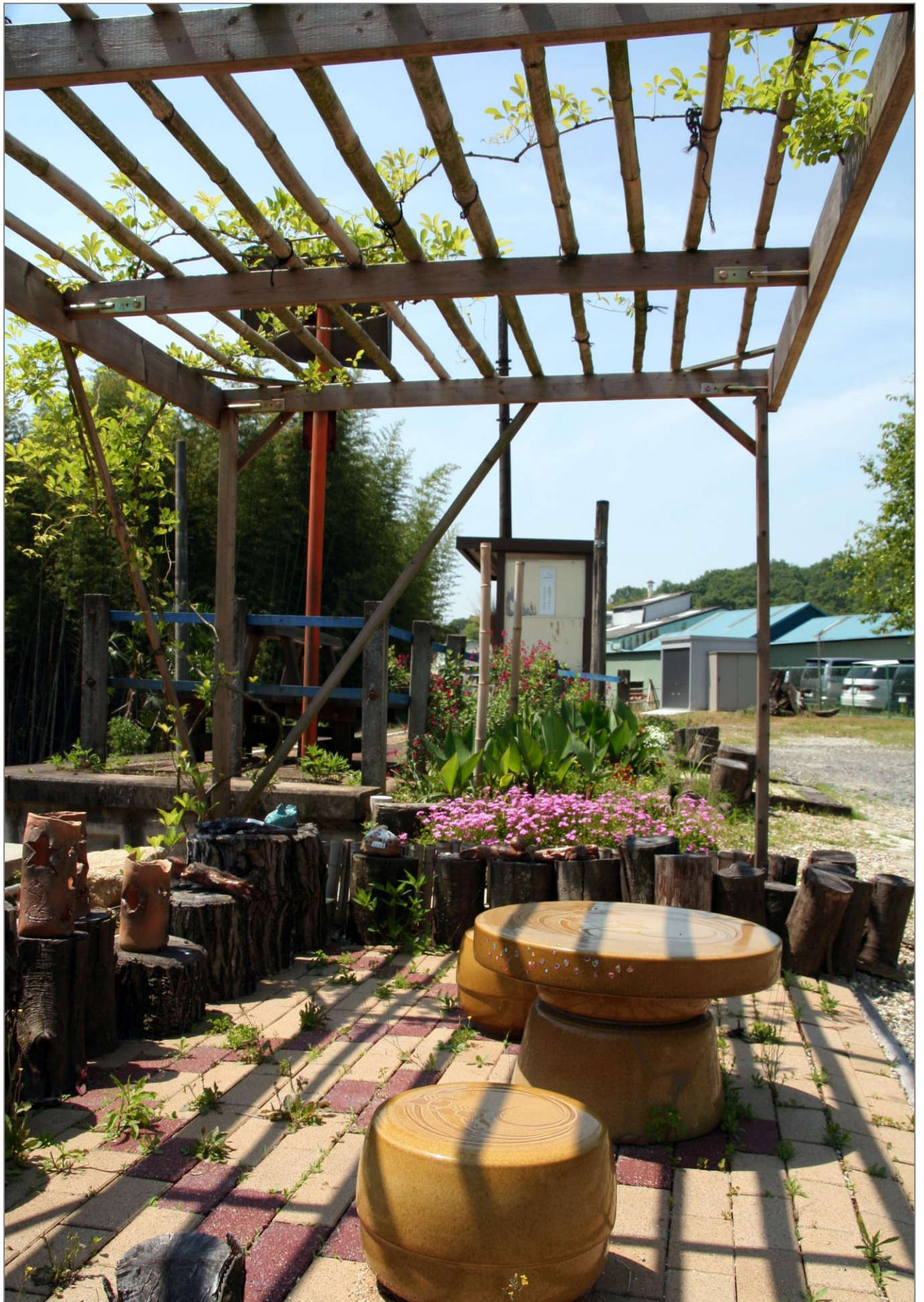


植栽ゾーンのチュリップ…平成19年4月17日…ヤツツジ…平成20年5月1日

春



平成19年4月17日



アケビの蔓もすくすくと…平成 20 年 5 月 21 日



孟宗竹&山桜…平成 20 年 4 月 4 日



桜と若葉と清流と…平成 24 年 4 月 12 日



平成 24 年 4 月 12 日 今年の枝垂れ桜は花びらがなぜか少ない。





三河広瀬方の竹林です…平成 24 年 5 月 19 日



平成 28 年 4 月 30 日



17日

平成 30 年 3 月 10 日



アガパンサス…平成 20 年 7 月 5 日



桔梗…平成 21 年 7 月 9 日

夏



平成 20 年 7 月 5 日





花壇に紅色のカンナが…平成 22 年 8 月 11 日



平成 25 年 7 月 19 日



平成 27 年 5 月 27 日



平成 28 年 8 月 5 日



平成 29 年 6 月 23 日



平成 19 年 11 月 18 日



平成 20 年 11 月 12 日

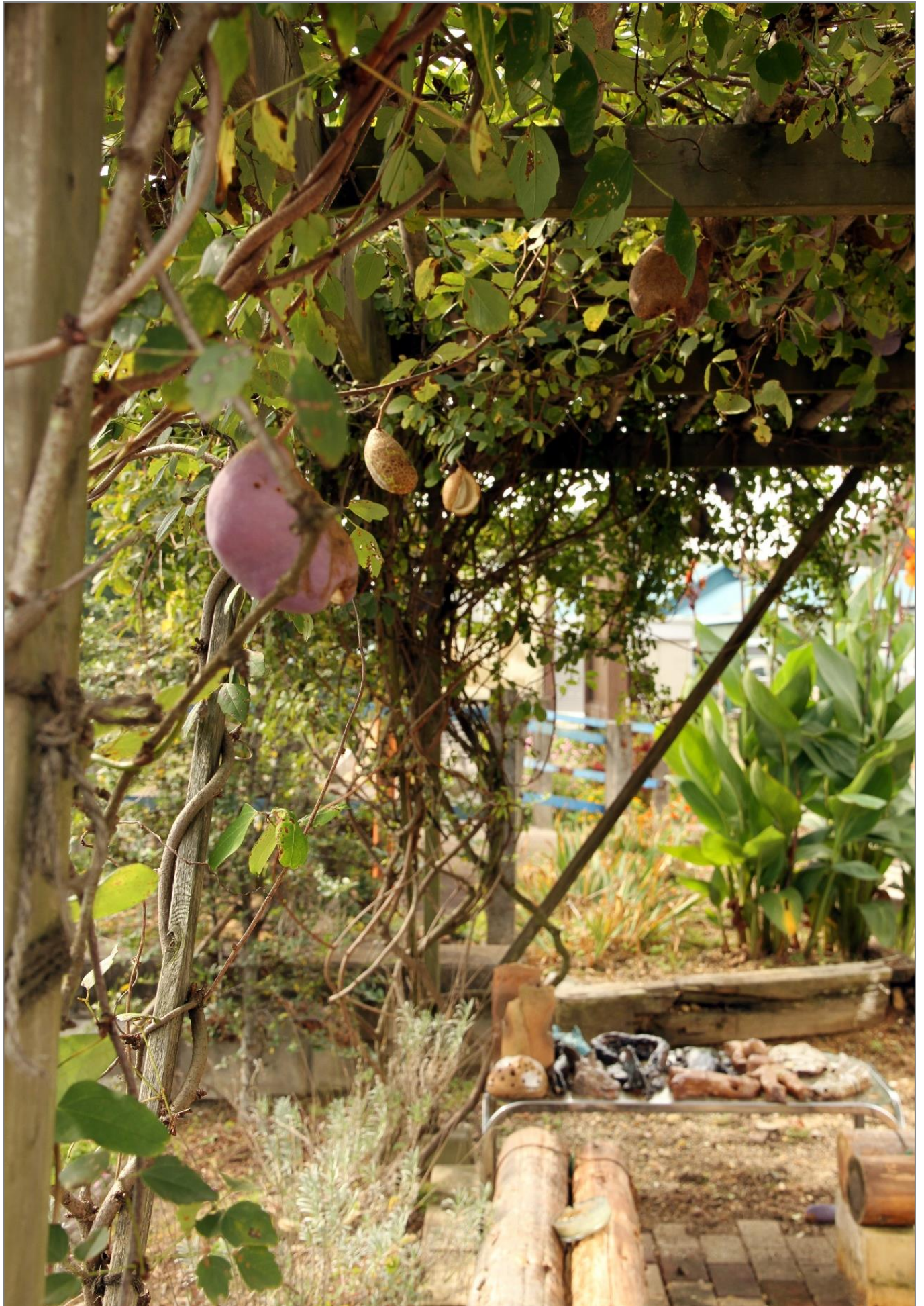
秋



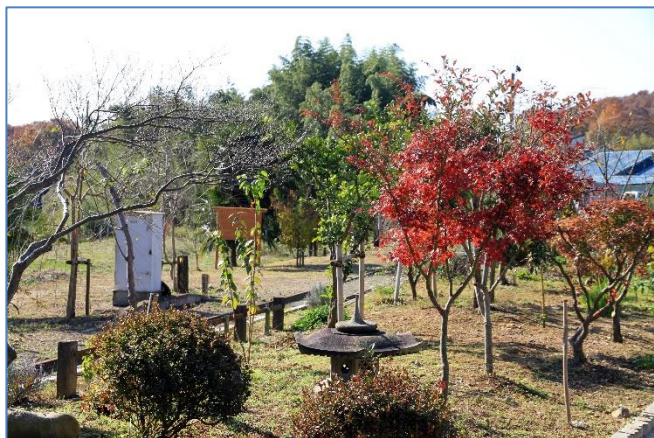
平成 21 年 11 月 28 日



平成 28 年 9 月 24 日



棚を覗けば美味しそうなアケビが…平成 23 年 11 月 17 日



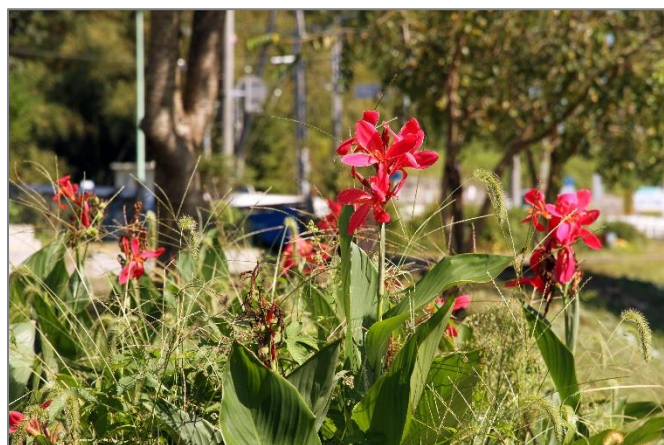
平成 22 年 11 月 26 日



平成 23 年 11 月 28 日



今年も紅葉のシーズンが…平成 21 年 11 月 28 日



平成 26 年 9 月 21 日



令和 2 年 11 月 16 日



冬





入口に工事用柵で通せん坊…平成 17 年 12 月 19 日



吹雪いていた雪も一休み…平成 23 年 1 月 16 日





手前は伐採された竹…平成 24 年 2 月 2 日
雪雲は目まぐるしく変化 薄日が差したかと思えば急に降り出す
アケビ棚も寒そう…平成 24 年 2 月 2 日





平成 26 年 2 月 8 日



平成 28 年 1 月 20 日



御船川橋梁

鉄橋と橋梁の違いは？ と問われれば、ほぼ同じと
答えます。鉄橋は俗語で、正式には橋梁です。

鉄橋とは、鉄道橋と鉄でできた橋の二つの意味が…。

ところで、この御船川橋梁は、名鉄では一番高い橋梁です。

何十メートルだったか忘れましたが…。長さは71.4メートルです。

今では「東海環状自動車道」の下になり、一生陽の当たらぬ運命に
晒されています。



平成 16 年 3 月



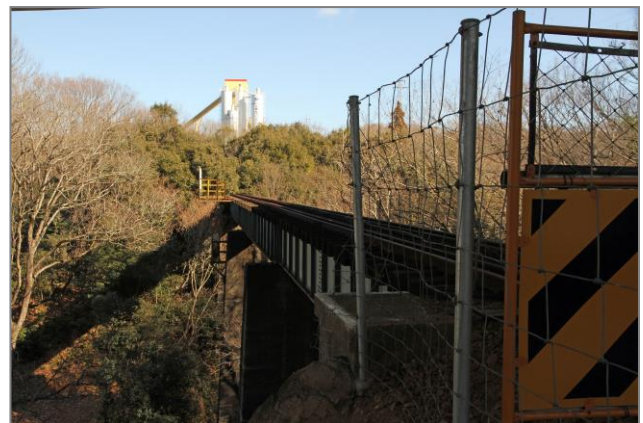
平成 22 年 12 月 27 日



平成 22 年 11 月 18 日



平成 22 年 12 月 27 日



平成 24 年 1 月 7 日



平成 22 年 11 月 18 日



上り列車…御船川～三河御船3号踏切間



御船川から御船方へ 50 ㌔を過ぎた 20%上り勾配

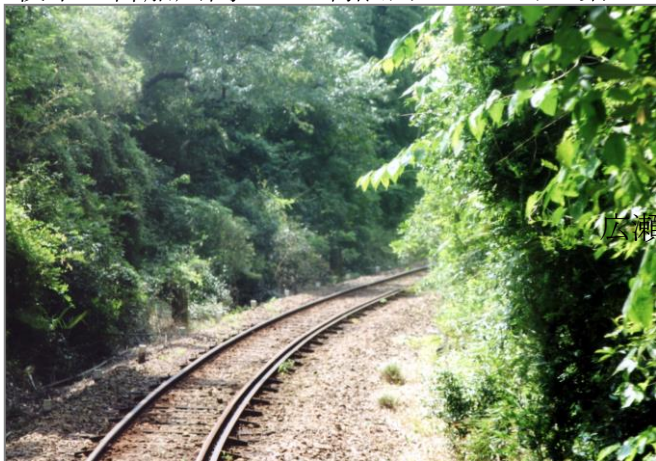
上り列車…大釜橋下



枝下～御船川間(跨線橋枝下方 22%の上り勾配)

落葉の季節 運転士を苦しめた上り坂

枝下～御船川間 45 ㌔制限内 20%上り勾配



広瀬2号踏切手前 55 ㌔制限内の 20%上り勾配

上り列車…枝下～大釜橋間



下り列車…三河広瀬1～2号踏切間

三星粘土



昭和初期の粘土採掘風景

枝下の皆さん、ありがとう「木節粘土(三星粘土會社)」の案内板を掲出してきて、私が三星粘土會社を知ったのは、名鉄に入社して車掌になったときです。

「神谷傳兵衛、寺山八三郎、神谷太一郎」の三人が資本金を出し合い三星粘土を立ち上げたことを知る。その一人、神谷傳兵衛は、日本の明治・大正に期の時代を代表する大実業家。西尾市一色町松木島出身、私の家から徒歩で20分足らず。言わば一色町が生んだ偉人中の偉人です。三河鉄道が大正3年2月5日、刈谷新(現・刈谷)～大浜港(現・碧南)が開通。大正4年10月28日、三河鉄道2代目社長久保扶桑が急死。計画していた大正4年10月28日、刈谷新～知立(現・三河知立)間は経営難の中、開通したが社長は欠員のまゝ、会社に中堅人物がいないため、借入金は支払えない。利に利がついて…。大正5年上期の入ると、専務取締役以下重役一同は、責任を負って総辞職。株主達に懇願され、大正5年4月5日、神谷傳兵衛は三河鉄道三代目の社長に就任。莫大な私財を投じて借金を返済、三河鉄道を救うには先ず知立～越戸間の敷設(越戸鉾山やその先にある枝下の木節粘土に目をつけていた)が急務と考え。大正11年1月17日、越戸まで開通。枝下や越戸で採取した「粘土」を貨物列車で刈谷へ運び、耐火煉瓦に製品化して関東・、関西へ輸出するため、東洋耐火煉瓦會社を大正7年設立した。詳細は「神谷傳兵衛」の冊子をご覧ください。

※2018年10月1日 復刻版著者 味岡源太郎氏の冊子が三河地区の各図書館に寄贈されています。



今年も紅葉のシーズンが…平成 21 年 11 月 28 日

山も秋色に衣替え…平成 23 年 11 月 28 日

